※令和４年度以降入学生用

学校番号	４０２

令和８年度　芸術科（書道）

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	書Ⅱ　　（光村図書）						
副教材等	くらしのペン習字　　（教育図書）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・書道Ⅰで学んだ基礎を踏まえた上で豊かな表現を身につけましょう。
・書道が日本の芸術、伝統文化であることを理解しましょう。
・作品制作では伝統的な表現形式とともに漢字仮名交じりの書等、表現の多様性を理解し、身につけましょう

2　学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる能力を次のとおり伸ばす。

（１）　書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付ける。

（２）　書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫し、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができる。

（３）　主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造してゆく態度を身につける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	・書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫し、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現や鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	漢字の書	・一年次に学習した古典の技法を復習するとともに新しい技法を学ぶ。 ・楷書の半紙作品制作 ・篆書、隷書についての歴史を学び基本的な技法、特徴を学習する。 ・書体にかかわらず代表的な古典作品を鑑賞する。 ・行書、草書の歴史を学ぶと共に基本的な技法、特徴を学習する。	a:古典の特徴と表現効果とのかかわり、書体や書風と用筆・運筆とのかかわりについて理解している。 b:古典のよさや美しさを感受し意図に基づいて古典の特徴や書風に即した、用筆、運筆、字形などを工夫している。 c:書の伝統と文化に豊かにかかわり主体的に表現活動に取り組み、また幅広い鑑賞の学習にも主体的に取り組もうとしている。 ご確認ください。	観察 提出作品	観察 提出作品 ワークシート	観察 提出作品
後期	仮名の書	・「書道Ⅰ」の学習を発展させて仮名の美の歴史的、書道的意義について理解する。 ・代表的な古典を鑑賞する。 ・変体仮名、連綿、行書き、散らし書きについて理解する。	a:仮名の様々な表現を鑑賞し、学習する。 b:仮名の用筆法を理解し、直筆、逆筆など小筆の先を使う技術を身に付ける。 c:仮名について理解しそのよさや美しさを味わい、その表現や鑑賞に意欲的に取り組もうとしている。	観察 提出作品	観察 提出作品 ワークシート	観察提出作品

※令和４年度以降入学生用

	漢字仮名交じりの書と様々な表現	様々な漢字および仮名の古典の学習をもとに、その表現を応用して漢字仮名交じりの書の作品の制作を行う	a:文字、語句の選定、完成に至る創作活動について関心を持ち、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組もうとしている。 b:作品の意図に基づいて表現を工夫している。 c:作品の意図を明確にするための技能を身につけ表している。現代に生きる創造的な表現を構想し工夫し、そのよさや美しさを味い意欲的に取り組もうとしている。	観察 提出作品	観察 提 出 作品	観察 提出作品

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度